あの時、 あの言葉

至誠 う信念 Y



私は、

1998年10月に日本長期信用銀行

問・コンプライアンスオフィサーのチャー

た。2000年に入ったある日、統括法律顧 クに転職し、財務部で資産運用を担当してい が経営破綻で国有化されたのを機にアフラッ

ランチに誘われた。私は銀行時代米国のロ ズ・レイクさん(現在、代表取締役会長)から

1

古出真敏 アフラック生命保険社長

もあったので、社内にそういう経歴の社員 われ、思い切って引き受けた。 たが、経験豊富なスタッフを揃えるからと言 ライアンス・検査部長が務まるか不安もあっ があった。保険業務の経験のない私にコンプ ス・検査部の部長になってもらいたい」と話 レイクさんから、「新設するコンプライアン がいることに興味を持ったのだろう。その後、 スクールに留学し、法務部で国際法務の経験

という想いはあった。ただ、それを言語化し、 対しても自分に対しても誠実に仕事をしたい は大きな共感を覚えた。私もそれまで他人に 自分の信念を率直に語ってくれたのだが、私 る覚悟である」と話があった。レイクさんは なことになるのであればいつでも会社を辞め さ、を信念にしている、『至誠』に反するよう は仕事をするうえで『至誠』、この上ない誠実 部長に就任した直後、レイクさんから、「自分 2000年4月にコンプライアンス・検査

> 明確に意識するようになったのは、これがき っかけである。

はないかと思う。 ダーからの信頼を獲得することができたので はあっても、長い目で見れば、ステークホル た。その結果、一時的に意見が対立すること よって、ぶれることなく行動することができ 内外のステークホルダーとコンプライアンス として、役職員、規制当局、代理店などの社 統括法律顧問・コンプライアンスオフィサー レイクさんが副社長になった時に引き継いだ に関して難しい局面になることもあったが、 「至誠」という信念をよりどころとすることに コンプライアンス・検査部長として、また

間もずっと「至誠」に基づき仕事をやってき そのときはすかさず「至誠」と答えている。 とは何か」という質問を受けることがあるが、 良い結果を導いてきたと強く実感している。 自分自身にとってだけでなく会社にとっても あまり「至誠」に基づき行動してきたことが、 たつもりだ。今振り返ってみると、この20年 017年7月から社長を務めているが、この (対話集会)で、「社長として大切にしているこ その後、経営全般に携わることになり、2 今、社員とのタウンホールミーティング